

2018/8/23 (木) 「身口意の三業について (仏教哲学より)」

身口意やるよ。身口意。今日はちょっと仏教の話からね。
大切な考え方とかそういうものが、えーそうですね、身口意ね。
あの、身口意の三業というお話があるんですけども、
えっとこれ、調べるといろんなのが出てきて、何が言いたんだっていうぐらいね、あの解釈が多いのよ。
で、一部の宗派とかの人たちはとんでもないこと、なんか3つの、まあ悪いことを言ってる人もいるし、
良いことを言ってることもあるし、いろんな事があって、あれなんですけれども、
まあ身口意っていうのシンは身、クは口、イは意識の意、そうですね、三業です。
三業の業とか行とか言いますね。
カルマのことですね、これね。三業。行為のことです。仏教で業といいますね。

であの、人はを動かすには、あの、要するに体で動かす、身体ですね。で、口で動かす。口でこう言って動かす。
で、心で動かす、というのがあるんですよ。

で身と、体と、口、言葉と、意識、心、意識で動かすというのがあるんですけども、
あの、まあ、もう一つの考え方として、三業の心で考えた事っていうのが口に出て、
で、口に出た事が自分の行動になっていくということなんです。

ところが、口で言ったことと、体で行動するとは、これはわかりますけども、
心で考えたことが口に出ると言う、この部分なんです。

で、皆さん、心でいろんなことを考えてて、口に出る事ってどのぐらいあると思います？
どのぐらいの比率だと思いますか？これね、1対5万。五万分の一しか出れないという。
実はこれ、この話は僕はホームページに昔書いたことがあるんですけども、
5万分、どうやって計ったかわかりませんが、五万分の一しか口に出ない。

例えばね、例えばええーそうね、
子供が一生懸命受験ずーっとやってきて、毎日毎日がんばってがんばって、
しっかりやってねと言い、もうどうしちゃったの、今日はちょっとできない、いろんなことを考えて、で、合格しました。
出る言葉、「おめでとうよかったね」だけなんです。

いやでもこの言葉に凝縮されるわけですけども、
多くの考えが言葉に出ると約五万分の一しか口に出ないというんですよ、はい。

例えばいつもいつも感謝している家族の人とかね、
感謝をしていると、毎日毎日、こういろんなことをやってくれと。
またはその食事を作ってくれとか、いろいろしてくれとか、いろんなことに関してそれに対して言葉というのは「ありがとうね」ぐら
いしか言えない。

たくさん感謝も5万分の1しか口に出ないということ、ですよ。
そんな一個一個全部思ったことを全部口に出しているということはないんですよ。
要するにその意という、身口意の意の部分っていうのは、その口に出るまで、五万分の一に減ってしまっている。
でも言わないと全く分からないですからね、何もね。

どうしたらその心とかそういうものを、体に、口に表して、体がこう良い行動につなげていけるかという、
そう考えると、意の部分っていうのを大きくしていかないと口に出てこないということが分かりますよね。
意識の部分をもっともっと大きくしないと、五万分の一しか出ないんだから。

その五万倍考えれば五万出ますけれども、
とにかくその、言ってることを、大きく、どんどん大きくしなきゃいけない。

ただ、ただですね、ここでポイントがでくるわけですよ。

何を考えているかっていうのが大切なんです。

人間何を考えているのか、っていうことですね。

要するに自分に対して内側のことを考えているのか、
自分から外側を考えているのか、で、大きく言葉は変わってくるということです。

内側を考えているとって何かというと、
これがですね、普通人間が生きるため、自分が生きるための問題の処理ばかり考えてるんですよ。
問題の処理、自分のことの問題の処理を考え、これを、どうやったらこれを人にアピールできるか、
どうやったらこれを、この製品が売れるか、どうやったら金が儲かるか、
どうやったらあの人に自分のことがわかってもらえるのか、どうやったら自分もつと〜なのか、
と言う、自分自分自分という内側のことを考えている。

問題の処理をしているばかり。

その問題の処理を排除することを考えている。または達成することを考えている。
いいですか、ほとんど普通、人間はそのように、意の部分で、
インナーの部分を考えているわけですね、自分のね。
でね、そういう考えのもとで5万分の一しかないんですけども、その中から口に出ることを考えると、
愛の言葉とか、それに対する身の部分、行動の部分とか、これは難しくないですか。
自分の問題の処理ばかり考えてる人に愛の言葉、愛の行動、無理じゃないですか。
普段考えていることがですね、
結晶のような言葉でなければいけないんですよ、口から出る部分、相手を動かす言葉ですね。わかりますよね。
ですから口に出る言葉というのは自分の意の部分、
どれだけ外側に向かか、
相手を想った考え方とか、
自分が自分の問題処理ではなく、愛情を持った考え方とか、そういうことの、
大きな、たくさんの大きな考えのほんの一部分が口に出るということ。
そしてその口が行動に変わってくる。自分も含めて他人の行動にも変わってくるということです。
ということは、例えば皆さんがお子さんに勉強しろと(笑)言いますが、
愛の言葉になっているかどうかを一度考えてみていただきたいと思います。

他人に対していろんな言葉を発するはずですけども、本当に自分が相手を考えて、物事を行動して、
その意識の中から生まれた言葉なのかどうかを一度考えてみるといいんじゃないでしょうかね。
身口意という、身口意の三業という、この仏教の言葉ですけども、解釈がたくさんあります。
ただ僕は、その口から、行動、言葉、意識の意識の部分、
身と口に、口にまずは、口ね、言葉に影響を与えて、その言葉が体を行動っていう、実際の行動になっていくということ僕は考えます。
ですので、これが要するに普段の、普段何を考えてるか、自分の貯金通帳ばっかじゃダメなんですよ。
普段何を考えているかということ。
はい、人に対する愛の言葉にするために、自分は一体何を考えなきゃいけないかということの一つね、
この身口意の三業から学んで、もう一度考え直してみるというのもいいんじゃないかなと思いました。

今日は身口意の三業ちょっとね、お知らせしましたが、
あのなんかこうネットなんかで見るとね、いろんなのが出てきて、あの、この前ヤフーの知恵袋かなんかで、三業のやつ、なんかすごいこと書いてありましたけれども、何宗かな、なんかいろいろありますよ。
まあ、参考までに見ていただいて、え一つの考え方として、
この話は実は僕のホームページに大分前にかいたんですよ。どっかにあります。
ちょっとで言葉の話で、どっかにいますから、教育に結びつけた、ちょっと見つけ出して
えっと新しいホームページの方に移動しとこうかなと思いますけどね。
はい、というわけで今日は身口意の三業でした。

あのさっきのね、内側か外側かの話なんですけど、
もちろん自分の事、インナーのことを考えるのが大切なんですけども、
問題処理というのは、問題の処理というのは、ほとんどインナーなんで自分のことなんですよ。
で要するに自分のことを考えている人が、人のことを思った言葉を発せないってことですよ。
いざ口にするとときに愛がないということになりますよね。
ですからそのバランスの問題です、これもね。
外のことっていうのは、例えば相手の立場になった、
本当にこれが相手にとって利益があるかどうかというこの言葉とかね、
発する言葉というのは、よくありがちなんですけども、発する言葉というのはほとんど自分の欲求の解消なんですよ。
親が子供に発することは、自分の欲の解消なんですよ。
なので、そこでたとえば本当に、その子供が、あの、そのことを言うことに対して、
今、例えば勉強しなさいと言うのは一番簡単な言葉。
勉強しなさいっていうのは、勉強している姿を見て自分がホッとしたいからでしょ。
で、相手の将来のことも思ってなんて、言葉で言うかもしれないけど、実は深層意識で、表面的なので、
そんなことはないということはあるわけですよ。
で、やっぱりその、どういうことを普段から豊かに思えるか、という練習がされてないと、
どうしても最終的に言葉に出ることは欲の追求になるわけです。自分のね。